2022
1

県民のあゆみ

山形県広報誌
令和4年1月号
No.625

2 新春知事対談　東京2020オリンピック・パラリンピック本県出場選手と語る
大会の感動とレガシー！！
8 特集　持続し成長する魅力ある水産業に！
16 やまがた伝説　啓翁桜

古くから漁業が盛んな鶴岡市由良地区で、市場では値段がつかない小鯛を使った商品開発に取り組む漁師のおかみさんたち。県では、水産業の成長産業化に向け、市町村・水産業者・県民等が一体となった取組みを進めています。
（撮影協力：ゆらまちっく海鮮レディース）

山形県広報誌 令和4年1月号
県民のあゆみ
1 No.625
奇数月1日発行　編集発行◎山形県広報広聴推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号　☎023-630-2534
表紙題字｜山形県知事　吉村美栄子
県ホームページアドレス　https://www.pref.yamagata.jp/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用紙へリサイクルできます。

やまがた伝説 DENSETSU

真冬に咲く桜を全国、海外へ！啓翁桜の栽培技術、出荷量はどちらも山形県が日本一!!

啓翁桜は、昭和5年に福岡県久留米市で生まれました。山形県の花木生産者が、これに注目して栽培に取り組んだのは昭和40年代からです。12月中旬から3月の冬期間に、切り枝で満開の桜を楽しめるようにと、生産者と県園芸試験場※が協力して促成栽培方法を開発、今では栽培技術・出荷量ともに日本一です。花がたくさん咲き、枝が細く柔らかいことから、飾り付けなどにも使い勝手が良いため、生花店のプロからも高い評価を受け、アジアを中心に海外へも出荷されています。

※ 現在の園芸農業研究所

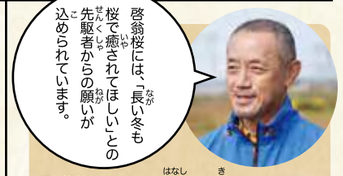
お正月を彩るめでたい啓翁桜は、福岡生まれ、山形育ち!?

桜は、冬の寒い期間を経験しないと開花できないんだって！

啓翁桜は、春から冬にかけて畑で栽培され、苗木から3～4年で花芽を付けるようになります。11月になると花芽を付けた株を枝切りし、冷蔵庫など低温の場所で保管して、12月に温室（ハウス）へ運び入れます。桜は、秋になって気温が下がると休眠し、一定の低温期間を過ごすことで開花できる状態になります。休眠から自然に目覚めるまでに必要な期間は気温８度以下で1,000時間以上、山形県は秋の訪れが早く、啓翁桜も早めに休眠に入るため、その分早く花を咲かせることができるのです。

啓翁桜の一番の需要期であるお正月に楽しめるように、生産者は休眠500時間程度の枝をお湯に浸したり、薬剤で処理したりすることで、人工的に目覚めさせます。その後、ハウス内の温度を上げることで、啓翁桜は「春が来た」と勘違いし、蕾を膨らませます。品質の高い啓翁桜を、需要の高い時期に出荷するには温度管理が重要。最低気温10度程度の条件でゆっくり加温し、20日以上かけて仕上げることで、より大きく濃いピンク色の花が咲きます。山形の生産者が培ってきた技術と経験、手間暇を惜しまぬ姿勢が、全国１位の座を支えているのです。

啓翁桜が正月に花を咲かせるのは、「春が来た」と勘違いするから？


啓翁桜には、「長い冬も桜で癒されてほしい」との先駆者からの願いが込められています。

啓翁桜についてお話をお聞きした
髙橋 正幸 さん
山形県花木生産者協議会 会長

ご家庭では、室温が低い涼しい場所に置くと、ピンクの花が徐々に咲き、より長い期間、桜を楽しむことができます。週に一度ほど、水の交換、枝の根元の切り直しをお勧めします。花が散った後もすぐに捨てずに、鮮やかな緑色の葉桜もぜひ楽しんでください。